

# 令和4年度「カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業」事業実施報告

令和5年2月24日

団体名 NPO人にやさしい色づかいをすすめる会

事業名 カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業

## 1. 事業の内容

### (1) 事業の目的

出前講座による講義とワークショップをとおして色覚の多様性について理解を深め、カラーユニバーサルデザインの必要性を認識するとともに、カラーユニバーサルデザインの普及促進を目的とする。

### (2) 実施内容

以下4市の市町村職員および県職員を対象に2022年11月10日～2023年1月25日の3ヶ月間に計5回、各2時間の講座「カラーユニバーサルデザイン推進支援講座」を実施した。

2022年度 カラーユニバーサルデザイン推進支援講座一覧

実施日時	参加人数	会場
2022年11月10日（木） 10：00～12：00	10人	刈谷市役所701会議室 〒448-8501刈谷市東陽町1丁目1番地
2022年11月15日（火） 14：00～16：00	8人	あま市甚目寺公民館講義室3 〒490-1111愛知県あま市甚目寺二伴田65
2022年11月30日（水） 10：00～12：00	19人	春日井市役所8階802会議室 〒486-8686春日井市鳥居松町5-44
2022年12月6日（火） 10：00～12：00	19人	豊川市役所本庁舎3階本33会議室 〒442-0068豊川市諏訪1丁目1番地
2023年1月25日（水） 14：00～16：00	66人	愛知県自治研修所7階大会議室 〒460-0002名古屋市中区丸の内二丁目5番10号 （※会場参加は36人、30人は遠隔受講）
合計	122人	

カラーユニバーサルデザイン推進支援講座は、前半を講義、後半をワークショップとする二部構成で実施した。冒頭に主催者側の挨拶があり、途中10分の休憩を挟むため、それぞれ50分ずつの時間配分とし、ほぼすべて時間通りに開始・終了した。企画としては、後半のワークショップはアナ

ログ（色紙を使った配色ワークと印刷物等の見直し）とデジタル（PCを使った配色ワーク）の2つの異なるプログラムを用意していたが、5会場すべてアナログタイプが選択された。需要はなかったものの、デジタルタイプは日常的な文書やスライド作成におけるカラーユニバーサルデザイン（以下CUDと称す）の対応を考えるヒントとなるプログラムであり、選択肢としては今後も妥当な設定となろう。

次いで講座内容を簡単に報告する。前半の講義では、スライド資料をスクリーンに映しながら色覚の多様性とCUDの実践的な手法について解説した。色覚の多様性とCUDの必要性を理解してもらうには教科書的な説明だけでは十分ではないため、講義の半ばに色弱模擬フィルタをかけて色紙を分類し色の見分けにくさを実体験するワーク、さらに色覚タイプの異なる色弱当事者2人の談話も挿入している。

後半のワークでは、まず色紙を用いて誰にとっても見分けやすい5色の組み合わせを考え、皆でその効果を考察してもらった。単純なワークではあるが、前半に講義で得た知識を反芻しながら試みると思考が深まっていくため、時間にゆとりがあれば、効果的なワークとなろう。また各部署から持ち寄った印刷物等をCUDの視点から見直す時間を取った。色弱当事者による批評は、このほか参加者には勉強になると好評であった。色弱模擬フィルタや、色弱者の色の見分けにくさをシミュレートするスマートフォンアプリを駆使し、印刷物を囲んで熱心にグループで議論する姿が、毎回各所で見られた。

より具体的な講座内容は、完了報告書に添付した講義用スライド資料（資料1）、講座当日に配布した各種参考資料（資料3）、アンケートおよびワークシート集計結果報告（資料4）および5会場の様子を撮った記録写真（資料5）を参照されたい。

講座の時間について、1コマの研修として2時間は適切である。とはいえ冒頭と終了時に主催者の挨拶や事務連絡が入り、10分の休憩を挟むと実質講義50分、ワークショップ50分となり、実施したわれわれの立場からすると、かなりタイトな進行を強いられた感があった。アンケート回答を見ると「ちょうどよかった」との意見が77パーセントを占めるが、「少し短かった」とした者も19人、「短かった」も1人おり、15～20分程度増やし、講座にかける実質時間を120分確保することも考えたい。

運営については、キャラバン隊事業も3年目となり要領を掴んでスムーズに動けるようになったことと、PCを使ったワークがないので機材の準備や動作チェックが不要となったこともあり、すべて滞りなく進めることができた。ある会場で、講師のPCとプロジェクタの接続がうまくいかずスライドの映写にかなり時間を要したことが一度あったが、それが教訓となり、以降はスライドのデータを主催者側の担当者に必ず事前に送ること、予備のHDMIケーブルを用意することを徹底している。また対面とリアルタイムの遠隔を行うハイブリッド形式の講座を体験し、いかに遠隔受講者にも満足していただけるかを考える機会となった。

## 2. 参加者状況

参加者は5会場で総数122人であった。上掲表の通り、その内訳は刈谷市が10人、あま市が8人、春日井市が19人、豊川市が19人、愛知県が66人（うち30人はウェブ会議システムを利用した遠隔受講）である。事業計画段階では、1会場につき定員を50人として30～40人程度の参加を見込んでい

たが、4市は20人弱の小規模開催となった。少人数ならではのメリットは、参加者と講師の距離が近くなることであり、ワークショップでひとりあたりの対応時間が長くなる等、今回はそれがよく表れていた。

参加者の講座に対する感想や評価は、講座終了時に実施したアンケート結果報告に詳しく示しているため、そちらを参照されたい（「カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業」完了報告書に添付した資料4）。ここでは、自由記述にはとりわけ次のような声が多かったことのみを記しておく。

- ・ CUDの必要性がよく理解できたので、今後はもっとCUDに取り組みたい。
- ・ CUDチェックツールを用いた色弱模擬体験により、当事者の見え方の理解が深まった。
- ・ CUDの手法に関する実践的な知識を得られた。
- ・ 当事者による談話や、印刷物を見ながら当事者の意見を聞いたことが良い経験になった。
- ・ 色弱の主なタイプであるP型やD型にとって赤は目立たないことを初めて知り、今後は赤の使い方に注意したい。

### 3. 担当者の感想・まとめ

担当者全員で推進講座終了後に本事業全体の振り返りを行った。そこで出た感想・意見のうち今後の活動に道を示すものを2つ記し、まとめとしたい。

会場参加者の多くが、CUDの基礎を理解され、CUDに配慮した資料を作りたいという思いを持たれていることが感じられ、よかった。バリエーションや色のシミュレーターを既に使われて、資料作りに活用されていることもわかって、今後の進展に期待をもった。少なくとも愛知県では、CUDが普及していくように思えた。制作者の色づかいの意図と、当事者の見え方・感想をマッチングさせる機会を設けることが、CUDに配慮した社会に近づく一つの取り組みかもしれないと感じた。当事者としても、有意義な時間だった。

CUD推進支援講座としては、短時間で盛りだくさんの講座ながら、ワークも講義も一定程度成果があったと感じる。根拠はCUDの必要性を理解でき、CUDに取り組みたいとする記述が多く見られたことである。特に、当事者と一緒に実際に印刷物を見ながら対話する経験が有効だったと感じる。今後CUDの実践においては、バリエーションなど用途に応じたCUDチェックツールを活用しながら、さらに幅広いCUDの手法を試し、それらを使いこなしていく必要がある。そのためには、今回だけの講座では不十分で、今後も色弱当事者を交えた対話を含めた、より実践的なCUD講座の継続が必要ではないか。

以上のように、CUD推進支援講座の意義をわれわれ自身が自覚し、より効果的なあり方を再考する機会となった。

最後に、こうした貴重な機会を与えられたことに深く感謝申し上げます。

以上